

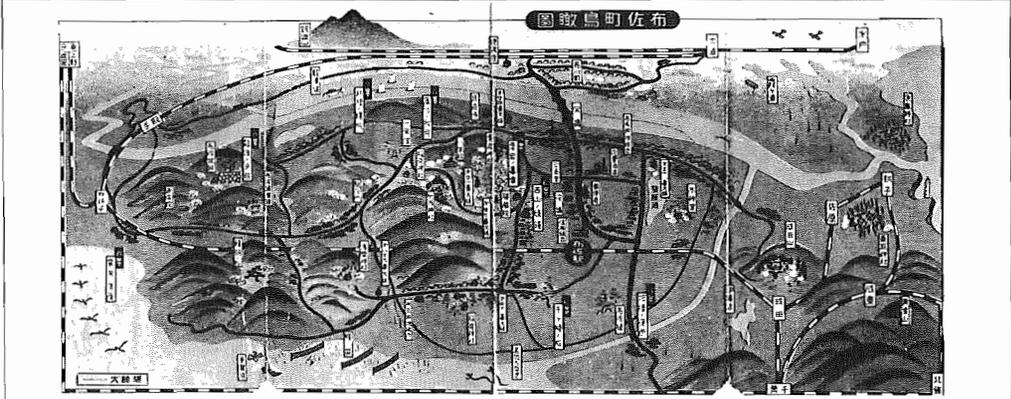
広報

あびこ

市民憲章

わたしたちは、利根川と手賀沼に囲まれ自然と歴史はくまられた我孫子の市民です。わたしたちは、田舎教育文化都市をめざす市民としての誇りをもち、明日への願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

水と緑と土のにおいがいっぱい 住みよいあびこにします
心と体をきたえ 生き生きと働き 伸びゆくあびこにします
老人を大切に 子どもの夢を育て 幸せなあびこにします
ふるさとを愛し 文化を高め 豊かなあびこにします
みんなで話しあい きまりを守り 明るなあびこにします



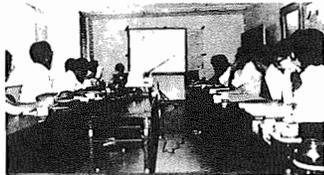
市民の手で我孫子の歴史をつくらう

市民参加の意義

昭和四十九年、市民の手でつくり出した歴史を、市民の手でつくりだす。市民の手でつくりだす歴史は、市民の手でつくりだす歴史。市民の手でつくりだす歴史は、市民の手でつくりだす歴史。

市民参加の意義

昭和四十九年、市民の手でつくり出した歴史を、市民の手でつくりだす。市民の手でつくりだす歴史は、市民の手でつくりだす歴史。市民の手でつくりだす歴史は、市民の手でつくりだす歴史。



講座生 土地の古老の話を聞く

歴史の楽しさ 講座生にきく

一方、「市民研究講座」は、昭和五十二年、市民が歴史をきくという目的で始められた。講座生は、二十代から七代まで、三、四十名の会社員。主として、元教師、農家のひとなど。講座生は、二十代から七代まで、三、四十名の会社員。主として、元教師、農家のひとなど。

谷川一さん、歴史講座の講師。出陣したのをきいて、市民研究センターのメンバーとなり、市民研究講座に参加するようになった。七年前に我孫子市に移ってきたとき、開成、都賀、中野、日野など、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。



水津敦子さん

研究を通して、勇ましく、逞しいのは女ではないかと感じ、男女同権だの、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。

平凡な農民の歴史を書きたい

水津敦子さん(月)寿にお住いの主婦。水津敦子さんは、市民研究第四号に、小農民の研究論文を発表しました。研究論文を発表しました。研究論文を発表しました。

市民研究第四号に、小農民の研究論文を発表しました。研究論文を発表しました。研究論文を発表しました。

予算からみた市のしごと(3)

- 土木費 二億六千九百円
○中野土地区画整理 道路築造、擁壁工事、盛土整地工事など 三億八千九百円、立毛休補償費六千九百円
○新土地区画整理 事業計画および調査設計料 三百二十万円
○我孫子駅前都市改造 事業費九億九千九百円、内容が仮換地指定に伴い、敷地造成や仮住宅建築工事など一億二千万円、移転物件調査や損失補償額算定など一億八千万円、建築物等移転補償費六億六千万円
○移転補償費六億六千万円
○我孫子駅前都市改造 事業費二億四千三百万円、内容が仮換地工事や水路築造など一億万円、仮換地指定に伴う移転補償費九千九百円
○下水道事業 一億七千四百万円
○公共下水道事業 二億円、日暮の家庭排水を衛生的に処理し、手賀沼浄化と生活環境の改善を図る。管線探査七、八千円、雨水汚水管理工事七、八千円、久喜家処理場等の管理費計一億円
○手賀沼流域下水道事業三億七千四百万円、手賀沼流域八町の区域の汚水を最終処理場で衛生的に処理します。



長谷川一さん

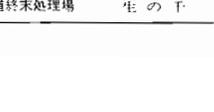
谷川一さん、歴史講座の講師。出陣したのをきいて、市民研究センターのメンバーとなり、市民研究講座に参加するようになった。七年前に我孫子市に移ってきたとき、開成、都賀、中野、日野など、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。

研究を通して、勇ましく、逞しいのは女ではないかと感じ、男女同権だの、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。

地名の研究に とりつかれて

長谷川一さん、歴史講座の講師。出陣したのをきいて、市民研究センターのメンバーとなり、市民研究講座に参加するようになった。七年前に我孫子市に移ってきたとき、開成、都賀、中野、日野など、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。

研究を通して、勇ましく、逞しいのは女ではないかと感じ、男女同権だの、女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。女性解放の口で活躍した。



手賀沼流域下水道終末処理場

昭和十年に書かれた布佐鳥瞰図。今回完成した我孫子市史研究第五号「旧布佐町のあゆみ」のカバーになっています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

「市民研究センター」は、昭和五十年に設立され、市民が郷土史を学習研究しています。現在、会員数は二百四十名のほり、県内の自治体単位の郷土史研究団体では、最大の規模を誇っています。「歴史」「地理」など五つの部会に分かれ、活発に活動し、市民編さん(自発的な協力)参加を行っています。

